

イデックスオイルレポート ~For a week~

2022/12/23作成 (株)新出光

【概況】<中国コロナ感染拡大、米国原油在庫の取り崩し>

●16日、最近発表された一連の米経済指標が低調だったほか、米連邦準備制度理事会(FRB)や欧州中央銀行(ECB)、英イングランド銀行(中央銀行)が相次いで利上げを決定したことを背景に、世界的に景気が落ち込むとの懸念が拡大。エネルギー需要見通しに警戒感が広がり、売りが優勢となり相場は74.29ドルへ下落しました。

●19日、新型コロナウイルスの厳格な防疫措置緩和に踏み切ってから約2週間が経過した中国では、感染拡大が続いています。一方では、新型コロナウイルス対策のさらなる緩和策が進められており、重慶市は18日、企業や公共機関の幹部職員については感染しても無症状か軽症であれば通常通りの勤務を可能にすることを発表しました。世界最大の石油輸入国である中国の石油需要が上向くと期待感が再び台頭し、原油の買いが先行し相場は75.19ドルへ反発しました。

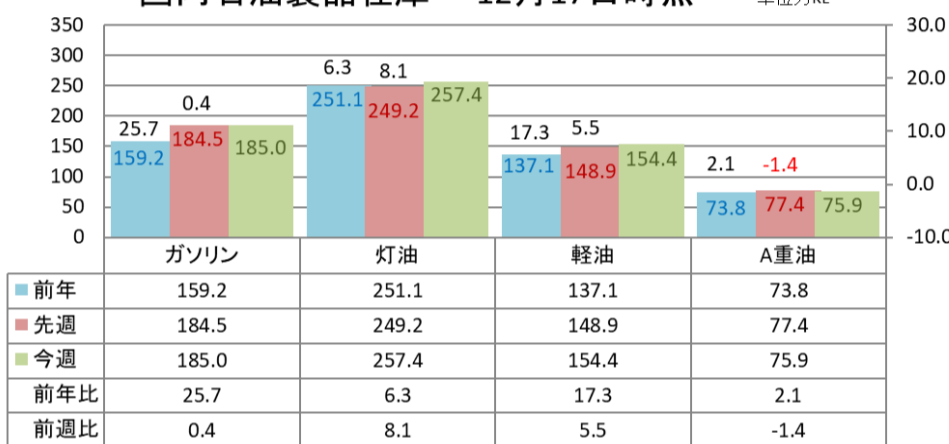
●20日、この日の外国為替市場では、ドルが主要通貨に対して軟調に推移。ドル建て商品の割安感が強まり、買いが先行しました。米エネルギー省が前週末、戦略石油備蓄(SPR)を補充するために最大300万バレルの石油を買い戻す計画を発表したことも相場を下支え相場は76.09ドルへ続伸しました。

●21日、米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計では、原油在庫が前週比590万バレル減となり、市場予想(ロイター通信調べ)の170万バレル減を大幅に上回る取り崩し幅となりました。また、米石油協会(API)が前日発表した原油在庫も取り崩しとなりました。また、クリスマス休暇を前に米国の広範囲の地域で大雪が見込まれていることから、航空便が遅延したり、道路が通行止めになる可能性があるとの懸念が浮上。そうなれば石油需要が一時的に落ち込むとの連想から、一段の高値には警戒感もありますが、相場は78.29ドルへ上伸しました。

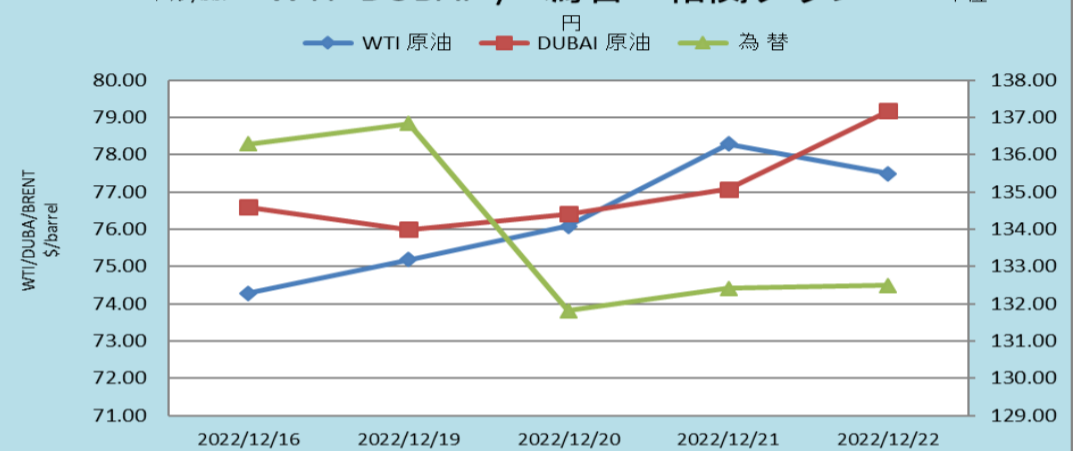
●22日、米エネルギー情報局(EIA)が前日発表した週間在庫統計では、原油在庫が市場予想を大幅に上回る取り崩しとなり、需給引き締め観測が台頭。朝方はプラス圏で推移し、一時節目の80ドル目前となりましたが、その後堅調な米経済指標が発表されると、流れは反転。2022年7~9月期の実質GDP(国内総生産)確定値が上方修正されたほか、週間新規失業保険申請も市場予想ほど増加しなかった。これを受けて、米連邦準備制度理事会(FRB)による利上げ局面が長期化するとの警戒感が再浮上し、株式などのリスク資産と並んで原油も売りにて相場は77.49ドルへ反落しました。

12月23日 16:00現在 WTI原油 78.26ドル 為替 1ドル 133.77円

国内石油製品在庫 12月17日時点 単位:万kl



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 単位



【製品卸価格】<悪天候による出荷規制が重なり供給や販売に多大な影響が及ぶ>

【製品卸価格】<悪天候による出荷規制が重なり供給や販売に多大な影響が及ぶ>

【今週】今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは、「+2.0円」、補助金は、「-15.6円」、都合「+0.1円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの19日時点の小売価格平均は168.1円となっております。

【12月24日以降】次回の元売り改定は、原油コストは、「-1.0円」、激変緩和補助金は「-14.9円」の見込みで、都合「-0.3円」の値下げ改定の予測となっています。市況連動玉を持つ業者の攻勢も下火となりほぼ販売枠を消化したようです。しかしまだ販売枠を残している業者もありプレイヤーが変わっただけで市況は改善されていません。月初からの販売不振とここに来て日本海沿岸の油槽所での相次ぐ出荷規制も重なり現地で販売できない業者が、都市部の製油所まわりで販売を強化しており競争はさらに熾烈を極めていきます。海上バンカー取引も悪天候によるシケのためオーダーも通りづらくなっています。年末の追い込みをかけている各業者にとっては、非常に売りづらい状況になっており規制のかかっている基地での販売競争がさらに激化するものと思われます。

	次回元売変動予測	
	12/29~	元売変動予測
ガソリン	→	-0.3
灯油	→	-0.3
軽油	→	-0.3
A重油	→	-0.3
LSA	→	-0.3

※原油コスト「-1.0円」
 ※激変緩和補助金「-14.9円」
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<名鉄運輸=リニューアブル燃料の検証>

名鉄運輸は、サントリーHDと共同でバイオ由来のリニューアブル燃料を使用したトラック輸送を始めたと発表されました。供給拠点は伊藤忠エネクス販売店の佐藤石油店飛鳥トラックステーションを使用するとの事です。期間は11月1日~12月23日で、対象経路は愛知県下のサントリー配送センターから岐阜県下の配送先間にて実施されております。

具体的には、トラック1台にリニューアブル燃料を給油し、燃費比較やトラック車両への影響、日常点検で既存軽油の相違点、エンジンのかかり具合や走行中の馬力、異音の有無等を検証されます。

今回使用するリニューアブル燃料は、廃食用油や廃動物油、植物油などの非可食油で、既存軽油と比べて二酸化炭素の排出量約90%削減が期待できるとの事です。両社でリニューアブル燃料の有用性を検証し、次世代エネルギー利用に繋げる構えで今後検討されるとの事です。リニューアブル燃料は、脱炭素化対応のための導入コストを最小限に抑え、GHG 排出削減にも大きく貢献できる「次世代リニューアブル燃料」として、今後の陸上輸送分野での更なる利用拡大が期待されます。

[出典] ① <https://www.rim-intelligence.co.jp/news/news-domestic/1729983.html>
 ② <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%82%B9%E3%83%86>